令和３年度　研究の方向性について

１　研究主題

算数のおもしろさに気付く子の育成
－数学的に表現し、伝え合う活動を通して－

２　主題設定の理由

一昨年度、本校では、「考える楽しさを味わい、数学のよさに気付く子の育成」をテーマに、算数科の授業研究、実践に取り組み始めた。算数の力をつけるためには算数を好きにさせることが先決であるだろうと考え、まずは「算数の授業はおもしろい」「友達といっしょに考えるのはおもしろい」と児童が思える学級、授業、教師とのつながり、児童同士のつながりづくりに重点を置いた。

また、昨年度からは、楽しむことと力を付けることの相関性を強め、算数だからこそ感じられるよさ、算数だからこそ味わえる楽しさを明らかにして取り組んでいく必要性があると考え、「考える楽しさ」と「数学のよさ」を、算数だからこそ感じられる楽しさやよさとして「算数のおもしろさ」という言葉にまとめ、上記の研究主題を設定した。身に付けさせたい力を明確にもち、児童の数学的表現を育て、伝え合いつながり合って学ぶ授業づくりに取り組むことで、おもしろさを存分に感じさせながら学ばせていく。そして、児童に「思考力・判断力・表現力」を付けるとともに、算数好きに育てていきたい。

３　研究の重点

「算数のおもしろさ」に気付く子どもを育てるための大前提は、算数の授業を楽しくすることとする。従来の知識･技能を学ばせることにおいても、問いをもつことで主体的に学べるようにしていく。その中で、今年度は、児童の自分なりの表現を引き出し、それを他の分類の数学的表現に換えたり関連付けたりしてつなぎ、児童の数学的表現を育てていくことに重点をおく。

そのためには、教師は、気付かせたい「算数のおもしろさ」やもたせたい「問い」、引き出したい言葉や内言、数学的表現を明確にもち、授業を計画することが必要になる。児童が自由に表現し、その表現が様々に言い換えられ、書き換えられていく授業、多様に表現される授業づくりに取り組むことで、算数科で育むべき資質・能力だけでなく、自ら「学ぶ力」、「学び続ける力」をもち、様々な問題にいどむ児童に育ってほしいという全体像を見据えた取り組みにしていきたい。そして、人とつながり、学びの対象とつながり、過去の学びと未来の学びをつないで未来を切り拓く人を育てていきたい。

そこで、研究主題にせまるため、以下の点に重点をおき、研究を推進する。

（１）授業づくりの工夫

自分なりの数学的表現をもち、伝え合う授業

①「算数のおもしろさ」を明らかにする教材研究

②既習との「ズレ」に気付かせ、「問い」をもたせる問題提示の工夫

③それぞれの表現を他の表現に読み換える活動の工夫

④子どものつぶやきや発言を引き出し、生かす工夫

⑤児童の学びと数学的表現の育ちを確かめる振り返りの工夫

（２）事前授業研究と事後授業研究会の工夫

（３）ICT の活用、算数タイムの取組の工夫、環境整備

（４）学級づくりと授業づくりの一体化